

【石川×東北 研究者対話セミナー】「能登の里山里海文化の復旧復興と継承を考える：東日本大震災の教訓から」を開催しました（2024/12/15）

テーマ：令和6年能登半島地震、能登半島豪雨、能登の里山里海、農林水産業、農山漁村文化、復旧復興
会場：石川県政記念 しいのき迎賓館 セミナールームB、オンライン（ハイブリッド）

2024年12月15日に、石川県金沢市において【石川×東北 研究者対話セミナー】「能登の里山里海文化の復旧復興と継承を考える：東日本大震災の教訓から」を、石川県内の研究者の要請に基づき開催しました。本セミナーの目的は、県・市町において令和6年能登半島地震・能登半島豪雨からの復興計画の策定と災害対応の検証が進められる中、地元・石川県の人文社会科学・農学・生態学等の研究者と、過去の被災地を抱える災害科学の研究者が、所属や専門分野を超えて顔を合わせ、知見を共有し、議論を深めることでした。

栗山進一当研究所所長・教授（災害公衆衛生学分野）が開会挨拶を行い、姥浦道生教授（空間デザイン戦略研究分野）、原裕太助教（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）が登壇しました。また、原助教は企画・運営・司会進行を担当しました。総合討論では、オンライン会場も交えて時間いっぱいまで活発な議論が行われました。

石川県からは、能登地方での一連の被災対応や世界農業遺産「能登の里山里海」の取組みに中心的役割を果たされてきた、石川県立大学、金沢大学、能登里海教育研究所、のと海洋ふれあいセンター、石川県立自然史資料館、能登半島地震に関する文部科学省の科学研究費助成事業（特別研究促進費）（突発災害科研）プロジェクト等の関係者が集まりました。

なお本セミナーは、当研究所災害レジリエンス共創センターが助成する、石川県立大学と当研究所の共同研究プロジェクト（2024年度災害レジリエンス共創研究プロジェクト、代表：山下良平）が主催し、石川県立大学、当研究所、本学災害科学コアリサーチクラスター災害人文学領域が共催、本学東北アジア研究センターが後援しました。

【プログラム】

13:30~13:50

主催プロジェクト代表挨拶	山下良平	石川県立大学生物資源環境学部
開会挨拶	栗山進一	東北大学災害科学国際研究所 所長
趣旨説明・登壇者紹介	原 裕太	東北大学災害科学国際研究所・環境科学研究科

13:50~14:50 =石川県の研究者より（講演）=

山下良平	石川県立大学生物資源環境学部
「農山村の復旧復興に関する1年の総括と2年目の展望」	
上野裕介	石川県立大学生物資源環境学部
「自然と共に歩む能登の復興：里山里海の価値を未来へつなぐ」	
浦田 慎	能登里海教育研究所、金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設
「公教育が支える里海の持続性：創造的な復興教育への挑戦」	

14:55~15:55 =東北地方の研究者より講演（講演）=

木村敏明	東北大学総長補佐・文学研究科長・文学部長・災害科学コアリサーチクラスター災害人文学領域長
「東北大学における災害人文学の10年—その蓄積と教訓」	

（次頁へつづく）

デレーニ・アリーン 東北大学東北アジア研究センター

「地域の災害復興のために：「七七」つながり支援隊から学ぶ、二つの沿岸で里海文化をつなげる人々」

姥浦道生 東北大学災害科学国際研究所・工学研究科

輪島市復興まちづくり計画検討委員会 委員長

「能登半島地震からの復興まちづくり計画—東日本大震災からの復興との比較も踏まえつつ」

16:05~16:55

総合討論・質疑応答（コーディネータ：大丸裕武 石川県立大学生物資源環境学部）

16:55~17:00

閉会挨拶 木村敏明 東北大学総長補佐・文学研究科長・文学部長

17:30~

懇親会・意見交換会（金沢市内の別会場）

文責：原 裕太（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）



栗山所長の開会挨拶



姥浦教授の講演



山下准教授（石川県立大学）の挨拶



司会進行する原助教



休憩中も資料・情報の交換や
 議論が深まる金沢会場



石川県政記念 しいのき迎賓館